

はじめに

寝たきりで日中何もしてなかった症例が、興味・関心チェックリストを使用したことで離床への意欲向上につながり、他者交流が広がったことを報告する

症例紹介

50代後半 女性 X-6年:脳出血 左片麻痺
特別養護老人ホームに入所していた
敗血症、尿管結石が改善せず
両腎臓摘出し透析と療養目的で当院入院
※使用した写真は当院倫理委員会と本人ご家族様の了承を得て使用している。



離床意欲につながるきっかけが必要

作業療法初期評価

興味・関心チェックリスト:手芸・他者との交流に興味

- ・基本動作:全介助 ・FIM:49/126点 ・日中ベッド上臥床状態
- ・Br.stage左上下肢手指:Ⅱ ・MMT:右上肢4下肢2・STEF(右):65点
- ・HDS-R:20点 ・線分末梢検査:左側9本無視

NMスケール
関心・意欲・交流:3

目標 「針手芸の作品を通して対人交流を深め、生活の質を高める」

経過

高血圧
ベッド
サイド介入

2か月

座位・立位訓練
◎車いす座位が安定
→簡単な塗り絵
左側に気づけるようになる

3～4か月

手指巧緻性が向上
本人希望→ビーズブレスレット・指輪作り

本人 「上手にできてうれしい」
毎日身に付ける
他患 「かわいいね」「作ってほしい」
プレゼントする交流

作業療法最終評価

- ・基本動作 ▲寝返り:自立 起き上がり:協力動作 移乗:臀部介助 座位:10秒保持可能
- ・FIM:55/126点・STEF(右):82点・HDS-R:21点・線分末梢試験:全可能

日中の離床時間は2時間半
・ラジオや雑誌をみて過ごす・Nsや他患に話しかけることが多くなった

NMスケール
関心・意欲・交流:9

考察

本事例は、興味・関心チェックリストで示した手芸に焦点を当てることによって離床できるようになり、他者交流が生まれたことで生活の質が向上したと考える。山根は「創作的な作業は日常生活になくてはならない作業とは言えないが、生活の質という視点から欠くことのできない作業である。」と述べている。

趣味活動の作品を通して自分らしさを取り戻した